

春日台だより 第30号

令和6年10月7日
綾瀬市立春日台中学校
校長 吉田 勉

～学校教育目標～

すすんで学ぶ人 こころ からだ 精神と身体^{こころ からだ}の健康な人 責任を重んじる人 心豊かであたたかい人

10月の朝会での校長先生のお話を掲載します。 「自主的」と「主体的」



皆さん、お早うございます。

先月に行われた体育祭では、皆さん一人ひとりが「自主的」に行動して、立派な姿をたくさん見ることができました。

そこで、きょうは、今言った「自主的」という言葉と、「主体的」という言葉について話したいと思います。

「自主的」も「主体的」も、「自分からすすんで行動する」という意味で、とても似ています。しかし、この二つの言葉には大きな違いがあります。

まず「自主的」は、ある程度決められていること、つまり「やるべきこと」「やらなければいけないこと」を、自分から率先して行う態度や行動について使う言葉です。

体育祭では、集合の仕方、競技のルール、係の仕事など「やるべきこと」「やらなければいけないこと」が予め決められています。皆さんは、練習をとおして、自分が「いつ」「どこで」「何を」すればよいのか、自分の「やるべきこと」「やらなければいけないこと」を理解し、当日は自分から進んで行動しました。だから、体育祭では、皆さん一人ひとりが「自主的」に行動していて立派だと、私は思いました。

一方、「主体的」とは、自分の意志や判断に基づいて、自分の責任のもとで行動するときを使う言葉です。「やるべきこと」「やらなければいけないこと」を決定するのは自分です。体育祭では「やるべきこと」「やらなければいけないこと」は決められていましたから、「主体的」とは違います。

さて、今週末から、合唱祭に向けての取組が始まります。合唱祭に向けては、まず自分たちで、クラスの合唱をどのように仕上げたいのかという目的（ゴール）を考えることが必要です。

そして目的を定めたら、そこへ到達するために、どのように練習すればよいのかや、どのように歌えばよいのかなど、自分たちで目標を考えて進んでいかなければなりません。

合唱祭に向けた取組は、自分たちで責任をもって考えて、自分たちで責任をもって練習を進めていく、「主体的」な行動が必要なのです。

「やるべきこと」「やらなければいけないこと」を自分たちで考え、「やるべきこと」「やらなければいけないこと」を自分たちの意志の力で成し遂げていく。その責任は自分たちにあります。

合唱祭に向けて、皆さん一人ひとりが自分の行動に責任をもって、「主体的」に取り組んでいくことを、私は期待しています。